

令和元年度 長崎南高等学校 学校評価 総括評価表（後期）

○ 教育方針	①真理と正義を求め、一意学問に精進する態度を養う。 ②すぐれた知性と実践力を養い、積極・創造の気概を振起する。 ③正しい判断力を育て、自主・自律の生活態度を確立する。 ④部活動を奨励し、明るく、たくましい心身を培う。 ⑤豊かな情操と強い連帯感を養い、奉仕する心を育てる。	《評価の基準》 4：十分達成できている （目標の8割以上が達成できている） 3：おおむね達成できている （目標の6割以上が達成できている） 2：どちらかという達成できていない （目標の3割以上が達成できている） 1：ほとんど達成できていない （目標の1割以下しか達成できていない） 評価…上段R1年度、下段H30年度
○ 努力目標	①学校運営の充実 ②生徒指導等の充実 ③教科指導等の充実 ④保健・環境美化等の充実	
○ 今年度の重点課題	①教科指導の充実 ②生徒指導の充実 ③進路指導の充実 ④部活動等の充実 ⑤心の教育の充実 ⑥スーパーサイエンスハイスクール(SSH)事業の充実	

評価項目	具体項目	目 標	具 体 的 方 策	評 価	成 果 と 課 題
------	------	-----	-----------	-----	-----------

1 学校運営 全職員が共通の理念に立った学校運営を行うことによる教育成果の評価

(1)重点課題	重点課題の設定とその具現化	本校の実態に即した年度の重点課題を設定し、職員・生徒・保護者の理解に基づく教育活動を展開する。	①今日的教育課題と生徒の実態を踏まえた重点課題を設定する。 ②重点課題の具現化方策を校務分掌及び学年経営方針に盛り込み実践する。 ③生徒・保護者・地域等に教育方針や重点課題等を説明し理解を得る機会を設定する。	3.4 3.4 3.4 3.4 3.2 3.3	重点課題を職員間で共有し、その具現化に向けた組織的な取組に感謝したい。本校の教育方針への理解を幅広く得る機会を工夫し、本校の特性に応じた教育活動をさらに推進したい。
(2)学年経営	学年目標の具現化	1学年 「深山の桜のように ～志と怒の心を育む～」を学年スローガンに ①豊かな感性を育む指導を充実させる ②自立した生活習慣を確立させる ③進路指導を充実させる	①学級活動・部活動・学校行事をと おして人間性の陶冶を図る。	3.5	多方面からのご指導のお陰で、全体的には何とか南高生として落ち着いた学校生活を送っている。今後は、様々な体験・交流活動や進路学習をもとに、将来への目標を持たせ、その実現に向けての努力を積み重ねていきたい。 様々な経験の場を与えていただき、少しずつ成長しているように思われる。これまでの活動を進路選択に生かす動機づけを行い、生徒の自己肯定感を高めることによって、より高い目的意識で今後の学校生活に向かわせたい。
			②面談をと おして生徒理解を図り、相互の信頼関係の下で指導及び支援を図る。	3.3	
			③進路学習やSSH活動、体験活動をと おして視野を広げ、主体的に学ぶ姿勢を育てる。	3.3	
		2学年 「自分を耕す！夢拓く南高生を目指して」を学年スローガンに ①豊かな感性を育む指導を充実させる。 ②自己を大切にし、思いやりのある生徒を育てる。 ③進路指導を充実させる。	①授業・部活動・学校行事・学級活動をとおして人間性の陶冶を図る。	3.5	様々な経験の場を与えていただき、少しずつ成長しているように思われる。これまでの活動を進路選択に生かす動機づけを行い、生徒の自己肯定感を高めることによって、より高い目的意識で今後の学校生活に向かわせたい。
			②面談をと おして生徒理解を図り、自己肯定感を高める指導により、社会性の育成を図る。	3.2	
			③SDGsの視点を取り入れ、SSH活動や修学旅行と進路学習を連動させ、主体的に進路探索に向かう姿勢を身につけさせる。	3.5	
		3学年 「Believe ～Team 57～」を学年スローガンに ①自ら品性を高める指導の充実 ②主体性を養う進路指導の充実 ③生徒指導及び生徒支援の充実を目指す。	①部活動・学校行事・学習・掃除・挨拶による人間性の陶冶	3.3	最終学年の年度末を迎え、学校行事や進路指導等、学校生活のあらゆる面で全学年の先生方のご指導をいただいた3年間だったと実感している。最後の出口に向けてあと少し全力を尽くしたい。
			②生徒自らが進路希望を主体的に開拓できる進路指導	3.5	
			③規範意識を高める指導による社会性の育成	3.3	

2 教育活動 教育全般における計画的・組織的な教育成果の評価

(1)教育課程の編成	創意工夫を生かした教育課程の編成と実施	本校の実態に即した教育課程の編成に努める。	新学習指導要領の趣旨を踏まえ、学力向上と進路希望の実現に対応できる教育課程を編成する。	3.3 3.3	新学習指導要領の研究を行い、本校に最適な教育課程の編成に努めていきたい。
(2)学習・進路指導の編成	①教科・進路	国語科	①授業担当者間の連携を密にし、授	3.3	新教育課程の実施に向け、

指導	学習指導の充実と国語力の向上に努める。	業の質を高める工夫を行う。		本校独自の指導内容の設定に取り組み始めたので、次年度以降の授業計画に生かしていきたい。
		②計画的に課題を与え、迅速に処理し、確実に仕上げるまで指導する。	3.0	
		③学力向上に向けて数値目標を掲げ実現に向けて組織的に取り組む。	2.8	
	地歴・公民科 個々の生徒に対応した学習指導の充実と学力向上に努める。	①教科担当者間の連携を密にし、授業の質を高めるように工夫する。	3.3	新課程の対応について研究する。
		②計画的に生徒の能力に応じた適切な課題を提供し、確実に仕上げるまで指導する。	4.3	ICTの活用を進める。 共通テストに向けた取り組みを行う
		③主要な模擬試験等に数値目標を掲げ、目標達成にむけて教科をあげて取り組む。	3.3	
	数学科 学習指導の充実と授業力の向上に努める。	①教科担当者間の連携を密にし、授業の質を高める工夫を行う。	3.4	共通テストのに向けた3年間の取り組みを教科内で再度確認していく必要がある。
		②計画的に課題を与え、処理は迅速にし確実に仕上げるまで指導する。	3.1	
		③主要な模試について数値目標を掲げ実現に向けて組織的に取り組む。	3.0	
	理科 学習指導の充実と進路実績の向上に努める。	①教科担当者間の連携を密にし、ICTを活用するなど授業の質を高める工夫を行う。	3.6	総合環境科学の実験などでのICT活用の機会が増加した。 SSH研究開発部との連携を強め、課題研究のより一層の充実に努める。 生徒の科学的見地を高め、今後は新テストに向けた取り組みを行う。
		②計画的に課題を与え、処理は迅速にし、確実に仕上げるまで指導する。	3.5	
		③主要な模試等について数値目標を掲げ、実現に向けて組織的に取り組む。	3.5	
		④生徒の実情にあったストレⅠ、Ⅱ、Ⅲや課題研究と総合環境科学の指導を通し、生徒の科学的見地を高める。	3.8	
	英語科 学習指導の充実に努める。 実践的コミュニケーション能力の育成を図る。	①教科担当者間の連携を密にし、ICTを活用するなど、授業の質を高める工夫を行う。	3.6	②・③に共通して、科内でシラバスを作成し、到達目標を掲げ、計画的に指導する体制を作りたい。与える単語もそろえたい。 MSTを全校体制で協力いただいております。方策④にも組み込んでいきたい。
		②計画的かつ継続的に課題を与え、迅速に処理し、確実に仕上げるまで指導する。	3.4	
③主要な対外テストについて数値目標を掲げ、その達成に向けて授業担当者間の協働により取り組む。		3.6		
④コミュニケーション英語、英語表現の授業およびSSHトレーニングにおいて、実践的コミュニケーション能力を育成する。		3.4		
保健体育科 学習指導の充実によってバランスのとれた体力づくりを目指す。	①教科担当者間の連携を密にし授業の質や緊張感を高める工夫を行う。	4	毎朝、教科会を行い、7分間走を含め、共通意識を持って授業ができた。受験指導については、学年担当ではなく、体育科内の全教員で取り組む体制を作りたい。	
	②主運動前に補強運動・7分間走を実施し、体力の向上を図る。	4		
	③受験（体育系）指導の充実。	3.8		
芸術科 学習指導の充実と感性豊かな人間性の育成に努める。	①授業に積極的に取り組ませ専門的に一定程度以上の能力を持たせる。	3	提出物や作品の締め切りなど守らせることができた。実技や筆記の試験と文化祭や卒業式などの行事を意識して計画的に授業を進める事ができた。	
	②決められた期間内に課題(歌唱または器楽の実技試験・鑑賞の記録・作品の完成)ができるようにする。	3		
家庭科 学習指導の充実と実生活への活用を努める。	①地域に根ざした実践的・体験的学習を取り入れることにより、家庭・家族と社会との関わりを理解させ、授業の質を高める。	4	乳幼児ふれあい体感をはじめ、新入生歓迎のしおり作りや3年生へのマドレーヌ作りなど実践的体験的な学習をより充実させて実践した。また、今年度から環境	
	②実生活に即した教材を使い生活に必要な知識と技術を習得させる。	3		

			③実習を伴う学習では、事前に目標を設定させ、目的意識を持たせる。実習後、レポートを書かせ、次の実習に生かせるようにする。	3	についての授業を実施し、各自ができる実践を環境宣言として書いて掲示させた。今後は夏休みの課題のホームページプロジェクト研究実施について、方法を改善し内容を深ませる工夫をしていきたい。
			④実技試験を多く取り入れ、技術習得の意欲を高める。	3	
			⑤長期休業中に生活に関する課題を出し、各自の家庭生活や社会生活に関心を持たせる。	4	
		情報科 情報に関する知識の習得と、情報技術・情報モラルの定着に努める	① 座学と実習を効果的に編成する	4	座学と実習を通して、コンピュータやインターネットの仕組み、情報モラルやマナーを理解させることができた。コンピュータ操作の習熟度は個人差が大きく、配慮する必要がある。
			②知識の習得(デジタルの知識・アルゴリズムの理解習得・問題のモデル化とシミュレーションの学習、情報モラルマナーの理解定着)	3	
			③技能の習得(コンピュータの基本的操作方法の学習)	3	
②特別活動	生徒活動の充実	生徒の自主的・自発的な活動の支援に努める	生徒会、文化祭、体育祭などの自主的な委員会活動を通じて、リーダーとなる人材を育成する	3.6 3.4	自主的な活動が行われ、課題解決に向けて、自分たちで話し合いの場を作れた。
(3)SSH事業の推進	SSH事業の円滑な発進と事業内容の充実	①SSH事業の円滑な運営	①計画的な運営を行い、SSH事業を円滑に進める	3.5 3.6	研究開発へのご協力ありがとうございました。グローバルに活躍する志を持つ生徒の育成する方法ができました。今後は成果を発信するHPの改善に取り組む必要があります。
		②研究開発の推進	②SSH事業2期目の目的に照らしたカリキュラムの研究開発を推進する	3.5 3.5	
		③研究成果の普及活動の充実	③SSHの活動や成果を学校のHPを介して保護者や中学校へ情報発信に努める	3.3 3.6	
(4)生徒指導	品位ある南高生の育成と安全な教育環境の充実	①元気のよいあいさつとその場にふさわしい言動ができる ②整理整頓ができる ③身なりが整っている ④時間を守ることができる ⑤思いやりの心とたくましい心を身につけている	①・登校時の挨拶指導の実施 ・学校生活における基本マナーの周知徹底(掲示)	3.0 3.4	先生方1年間ご協力ありがとうございました。 ・先生方の指導の下、生徒は全体的によくルールを守っている。 ・挨拶が感じがよく爽やかな南高生がたくさんいる。 ・挨拶や掃除の指導はもっと徹底してやるべき。 ・挨拶ができない生徒が増えている気がする。 ・掃除が週3なので、先生方もしっかりと指導する必要があると思ってもらえるようだ。 ・容儀検査も大きな混乱はなく、先生方との信頼関係の下スムーズに行われている。 ・時間厳守と机ロッカーの整頓は今後改善していく必要がある。
			②・職員監督の下、掃除を徹底 ・机・ロッカーの整頓 ・貴重品の管理	2.9 3.0	
			③・違反についてはその場で指導 ・容儀検査の実施と事後指導徹底	3.0 3.1	
			④・授業前2分前着席と集会時の5分前集合 ・下校時刻の遵守徹底	2.7 3.3	
			⑤・ハスマナー指導 ・生徒理解に努め、自己有用感を高める指導を心がけ、人と関わる力の土台をつくる(生徒指導研修会の実施等) ・携帯端末使用ルールの遵守徹底	3.2 3.4	
			(全般) ・毎月生徒指導便りを発行し、保護者と情報の共有化を図る ・生徒会、生徒支援部との連携	3.4 3.6	
(5)健康・安全指導	健康や安全に対する意識や態度の育成	本校の教育方針や重点項目にそって、健康・安全指導の充実に努める。	①自律的な生活習慣を確立させ、健康保持・増進を図らせる。	3.0 3.1	今まで以上に起床、就寝、家庭学習の開始の時間を固定するように指導していき、生活習慣の確立を図りたい。
			②教育活動時の安全保持に努める。また、安全意識の涵養を図り、生命尊重の精神を高める。	3.3 3.4	
(6)心の教育	他者を思いやる心や命を大切に する態度の育成	教育活動全体の中で心の教育の充実に努める。	①支援部及び学年団や担任、保健室間の連携をさらに密にする。	3.5 3.4	スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の外部機関を今まで以上に積極的に活用していきたい。
			②スクールカウンセラーや外部機関等を積極的に活用し、予防に重点を置いた教育相談体制の充実に努める。	3.3 3.3	
(7)部活動	部活動の活性化	1年次の全全部活制を生かし、個々の生徒の活動の継続に努める。	部活動の練習環境を充実させるとともに、練習時間と部室使用規定を遵守させ、「学習と部活動を両立」させる。	3.0 3.1	・部室の電気について検討してもらいたい。(冬の着がえ、物の整理・紛失問題) ・ガイドラインの中で効率的な活動をするのが課題。

3 教育環境		学校の置かれている教育環境に関わる教育成果の評価			
(1)施設・設備の管理	施設・設備の適切な管理に努め、維持補修、改修工事を計画的に実施する。	施設・設備の維持・補修と安全確保に努める。	①継続的な安全点検を実施し、危険防止に努める。 ②施設の維持補修及び改修工事を計画的に実施する。	3.4 3.2 3.3 3.4	施設・設備の不具合についてすぐにお知らせいただいているので助かっている。引き続き早急に対応できるようにしていきたい。
(2)情報化推進	教育活動のIT化	IT関連の施設・設備の充実と教育活動分野への活用促進に努める。	①・情報機器等の充実した整備を行う ・校内LANの生徒への活用を推進する ②校務処理の効率化と職員のICT活用能力の向上に努める。	2.9 3.0 3.0 3.2	授業、SSH、進路学習、部活動等でパソコン室が活用できた。また、1年生各教室にもプロジェクターが設置され、授業で活用できるようになった。
4 開かれた学校		関連機関や団体との連携における教育成果の評価			
(1)保護者との連携	PTA活動の充実	PTA総会の盛会与PTA活動の活性化に努め、学校と家庭間の連絡を密にする。	①家庭と学校との緊密な連携を保つための情報発信をこまめに行う。 ②PTA総会の内容の工夫を行うなどで、出席率を向上させる。	3.2 3.2 3.2 3.1	PTAの諸行事に多くの保護者に参加していただいた。今後も参加率向上に向けて内容の工夫を行いたい。
(2)地域や関係機関との連携	外部講師等の活用	外部講師の招聘による教育活動	同窓会や民間機関等の人材を有効に活用して、教育効果を高める。	3.2 3.3	様々な分野で活躍する先輩の講話はやや高尚であったが、いい刺激にはなった。同窓会との連携を図る。
5 生徒の教育成果		校訓の具現化～知育・徳育・体育の調和のとれた教育活動全般の評価			
(1)豊かな人間性	・理想は高く、気魄と情熱に燃える生徒の育成 ・親和と友愛に充ち、礼節を重んじる生徒の育成	学校への帰属意識を養うと共に、他者を思いやる心や奉仕する心を育てる。	①クラスや生徒会活動で、学校行事やボランティア活動に積極的に取り組ませる。 ②生徒会専門委員会や執行部の活動として、あいさつ運動やバスマナー指導を行い、品性のある生徒を育成する。	3.0 3.0 3.1 3.2	・各専門部、活発な活動ができた。 ・専門委員会における自主的な活動を継続していくことが課題である。
(2)学力の向上	・真理と正義を求め、一意学道に精進する態度を養う。 ・すぐれた知性と実践力を養い、積極・創造の気魄を振起する。	・入学後の導入をスムーズにし、基礎学力の向上を図る。 ・学習意欲を高める授業法を探索し、授業の質の向上を目指す。	①導入期の指導を計画的に実践し、高校生活へのスムーズな移行を実現し、基礎学力の向上を図る ②公開授業や研究授業を実施して教員の指導力向上を図る。 ③ 進路実現100%を目指す	3.0 3.2 3.4 3.3 3.0 3.5	①校内実力テストを効果的な活用 ②授業研究の日を新設した。今後は授業研究会や職員研修のあり方をさらに検討する。 ③第1志望へのこだわりを生む計画的な指導
(3)健康や体力	健康で明朗、品位ある生徒の育成		①部活動を奨励し、生徒が部活動に参加することを通して、明るく、たくましい心身を培う。 ②行動体力を高めるとともに、防衛体力をつけ、病気やケガに強い身体作りを行う。	3.3 3.2 3.1 3.1	・病気や怪我が多いように感じた。体育と部活動を通して、より体力を高める取り組みをしたい。 ・1年生で転部せずに、部活動に行っていない生徒への対応が必要。